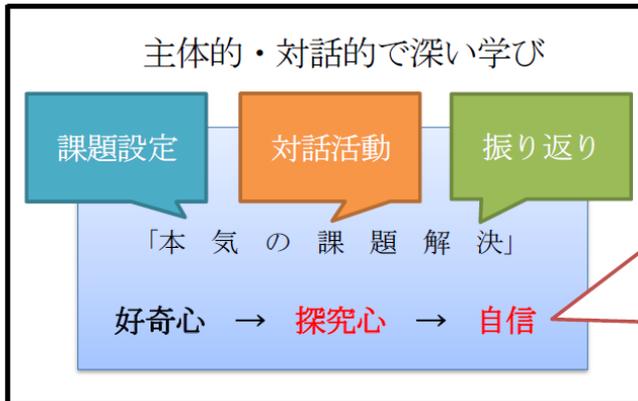


校内研究授業からの学び、今年度の現職教育の成果

今年度、本校では下図のような「仁尾中授業デザイン」を基にして、深い学びについての研究を進めてきました。具体的には、異教科での教師3人グループを作り、各々が1回ずつ研究授業を行い、授業後に討議会をもつようにしてきました。



生徒の好奇心が
「できた」
「やった」
「もっと知りたい」
「もっと考えたい」
「次は〇〇について考えたい」
「やってみたい」
という探究心や自信へと変わるような学び



1/29(水)に今年度最後の校内研究授業(保体2、理科、音楽、数学)を行いました。12月の授業参観が中止になったことでもありますので、今年度のまとめとして、研究授業からの学びを含めた現職教育の成果をお伝えしたいと思います。

(1) 課題設定【生徒が主体的に考えたいような「魅力的な学習課題の設定」】

学習課題を当たり前のように生徒に提示するのではなく、内容目標(なぜ〇〇なのだろうか?)の学習課題を、前時の学習における振り返りやクイズ等、生徒が主体的に取り組めるように工夫を凝らした形で設定できていました。これは、生徒質問紙「授業では、課題解決に向けて自分で考え、自分から取り組むことができているか?」の肯定率が、県平均より10%上回っていることに表れています。

(2) 対話活動【生徒が主体的に学び合えるような「対話の在り方」】

全教科で、ペアやグループでの対話が設定されていました。対話には4タイプあります。今後、「自己との対話」「過去の自分との対話」を意識してみるのも面白い提案になると思っています。また、Google Classroomのスプレッドシートを活用したり、プレイ中の動画を撮影したりするなど、生徒用タブレットの活用方法も提案されていました。これは、生徒質問紙「授業では、学級やグループの中で、自分たちで課題を立て、その解決に向けて情報を集め、話し合いながら整理して発表する学習活動に取り組んでいますか?」の肯定率が、県平均より7%上回っていることに表れています。

(3) 振り返り【生徒が自信を自覚したり、主体的に探究したりしたくなる「振り返りの効果的な行い方」】

振り返りは生徒、まとめは教師が行うものが徹底できていました。特に振り返りでは、振り返る際の視点を明確にして、「書く」というアウトプットに取り組ませていました。これは、生徒質問紙「学習した内容について分かった点やよく分からなかった点等を見直し、次の学習につなげるための振り返る活動をよく行っていると思いますか?」の肯定率が、県平均より9%上回っていることに表れています。

確かな学力

2/6、県学習状況調査の結果が、新聞で公表されました。「考察力や表現力に課題がある」という指摘がなされましたが、問題視されていた英語の問題の正答率は13%、無回答率も7%上回っていました。同じく数学の無回答率は10%上回っていました。先生方の日頃の頑張り、本校の子どもたちには確かな学力が定着しています。県が示す課題解決には読書が有効なので、今後、読書時間について検討を進めます。



豊かな心

2/7の午後、「いのちの授業 ~いのちのバトンタッチ~」をテーマに、鈴木中入氏による夢講演会を開催しました。小児がんで亡くした娘さんのお話に、涙が止まりませんでした。鈴木さんから多くのいのちについての言葉がありましたが、特に「どんなことがあっても親よりも早く死んではいけない」という熱い言葉が印象的でした。良い話が聴けて、参加した全員の心が少し豊かになりました。

